別紙様式

成果（○）と課題（●）　　校番（５）　【三坂地小学校】

１　「本質的な問い」による単元構想について

○　「図形を学ぶ意義とは何だろう？」という本質的な問いに対して，本単元では，「図形の違い・ひみつ」など，児童の実態に合わせた問いを設定した。第６時の正方形の構成要素を見付ける活動では，算数的活動の時間を確保したことで，既習事項を生かして調べ，気付いたことを自分の言葉で説明することができた。

●　「個別の問い」を主発問として設定していたが，予想していた児童の反応とは違う反応であった時に，教師が話しすぎてしまう場面が見られた。「本質的な問い」に迫るためには主発問だけでなく切り返し発問などの計画も必要である。

２　単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

○　単元末テストにおいて，本単元と１学期末テストの正答率を比較すると，83.5%から 95%に上昇した。また，三角形と四角形を見付けるレディネステストは，事前 38%から事後 55%に上昇した。その結果の要因としては，次の２点が考えられる。１点目は，図形の「ひみつ」など児童が考えたくなるような問いを設定し，単元全体を通して図形を構成する要素に着目させて授業を展開したことである。２点目は，授業の始まりに丁寧に既習事項を確認し，それを活用して考える授業展開にしたことである。

【思考・判断・表現】

○　説明することについての意識調査の結果，「説明することが得意」と肯定的に答えた児童は事前 50%から事後 78%と，自分の考えを表現することを肯定的に捉えることができる児童が増えた。

○　児童の振り返りの記述において，表現することに対して肯定的なものが多く見られた。

友だちとペアトークではなしあったら，前よりもっと正方形を見つけるのがわかりやすくなりました。	ペアトークで直角三角形がわかりました。長方形と正方形もわかりました。
児童の振り返り	児童の振り返り

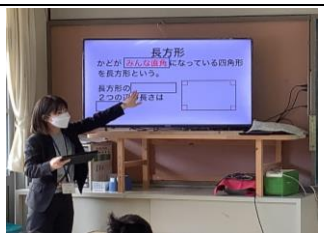
【主体的に学習に取り組む態度】

○　第６時では，正方形と長方形の性質を学習した後に，身の回りにある長方形や正方形を見付ける活動を設定した。児童は，学習した「辺の長さ」「角」などに注目しながら主体的に取り組むことができた。友達の説明から，友達が見付けた図形に興味をもち，自分でも調べようとしている姿も見られた。

３　「デジタル機器」の活用

○　タブレットでパワーポイント資料を見せながら，図形の定義や構成要素を確認することで，児童が集中力を高め，端的に授業の導入を行うことができた。また，その後の「正方形のひみつを見付ける」という学習活動にも，その要素を生かすことができた。

○　学習したことを生かして，身の回りにある正方形や長方形を見付け，その構成要素や実物について全体の場で発表し合う際に，タブレットのカメラ機能でテレビ画面に映しながら説明させた。動かすことができない物も，画面を通して瞬時に共有でき，分かりやすく確認し合うことができるため，さらに学習意欲を高めることができた。



図形の定義や構成要素の確認

カメラ機能を活用した説明